

教職員用

令和2年度 大阪府立八尾北高等学校

# 学校教育自己診断票

## 集計と考察

☆ 記入にあたって ☆

この診断(アンケート)は、本校の教育活動が生徒の実態や保護者・地域住民のニーズなどに対応し、効果的に実施できているかどうかについて、学校自らが教育計画の達成度を点検し、教育改善のための方策を明らかにするために行うものです。回答方法は、それぞれの質問内容を読んで下記の通りに記入ください。

あてはまる場合	→	1の欄にマーク
ややあてはまる場合	→	2の欄にマーク
あまりあてはまらない場合	→	3の欄にマーク
あてはまらない場合	→	4の欄にマーク

判断できない場合やわからない場合は、空欄のままにしておいてください。  
ご協力、よろしくお願いいたします。

大阪府立八尾北高等学校長 岡本 泰弘

教職員数 59 人 回答数 54 人 (回答率 91.5%)

※指標 =  $\{1*2+2*1+3*(-1)+4*(-2)\}/10$

	質 問 項 目	1	2	3	4	20 年	19 年	18 年
		あてはまる よく	あてはまる やや	あてはまらな あまり	あてはまらな まったく	今 年 度 指 標	全 年 度 指 標	前 々 年 度 指 標
1	本校の教育活動について、教職員間で日常的によく話し合っている。	46.3	42.6	3.7	7.4	11.7	9.6	7.1
2	各年度の教育計画の作成に当たって、教職員でよく話し合っている。	27.8	46.3	18.5	7.4	6.9	2.0	0.3
3	本校の教育活動には、生徒や保護者のニーズにあった特色がある。	42.6	57.4	0.0	0.0	14.3	13.3	10.0
4	教育課程の編成にあたって、学習指導要領の趣旨が活かされている。	31.5	51.9	13.0	3.7	9.4	6.4	5.6
5	教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている。	24.1	55.6	13.0	7.4	7.6	5.5	5.9
6	教職員は生徒の意見をよく聞いている。	50.0	50.0	0.0	0.0	15.0	12.8	11.9
7	本校は、教育活動全般について、生徒や保護者の願いによく応えている。	38.9	55.6	3.7	1.9	12.6	11.6	8.5
8	年間の学習指導計画について、各教科でよく話し合っている。	38.9	38.9	16.7	5.6	8.9	4.9	2.9
9	各教科において、基礎・基本を明確にし、教材の精選・工夫を行っている。	42.6	46.3	9.3	1.9	11.9	8.9	8.1
10	指導内容について、他の教科と話しあう機会がよくある。	9.3	24.1	44.4	22.2	-4.6	-5.0	-6.7
11	生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている。	37.0	57.4	5.6	0.0	12.6	10.9	11.7
12	グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。	46.3	37.0	16.7	0.0	11.3	10.5	7.9
13	到達度の低い生徒に対する学習指導を、個に応じた観点で工夫して行っている。	38.9	50.0	9.3	1.9	11.5	8.7	9.0
14	学習意欲の高い生徒に対する学習指導を、個に応じた観点で工夫して行っている。	22.2	55.6	20.4	1.9	7.6	7.7	7.1
15	評価のあり方について話し合う機会がよくある。	18.5	50.0	24.1	7.4	4.8	1.9	-0.5
16	カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。	29.6	64.8	3.7	1.9	11.7	9.5	6.0

17	生徒の基本的な生活習慣についての枠組みを十分に指導していると思われる。	18.5	53.7	20.4	7.4	<b>5.6</b>	4.8	4.1
18	学校生活上のマナーについての指導が十分になされていると思われる。	13.0	40.7	29.6	16.7	<b>0.4</b>	0.2	2.0
19	生徒の問題行動が発生した場合、組織的に対応できる体制が整っている。	44.4	40.7	11.1	3.7	<b>11.1</b>	7.9	8.0
20	さまざまな問題行動の防止のための早期指導を、学校全体で心がけている。	33.3	46.3	16.7	3.7	<b>8.9</b>	7.2	7.5
21	<b>いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。</b>	29.6	57.4	9.3	3.7	<b>10.0</b>	8.9	11.4
22	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる。	51.9	42.6	3.7	1.9	<b>13.9</b>	13.5	12.0
23	生徒指導において、家庭との緊密な連携ができている。	37.0	57.4	5.6	0.0	<b>12.6</b>	11.9	12.0
24	生徒指導について、関係諸機関(警察・補導員・子ども家庭センターなど)との緊密な連携ができている。	25.9	53.7	16.7	3.7	<b>8.1</b>	6.6	7.9
25	校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、生徒や教職員の間で話し合う機会がある。	24.1	46.3	22.2	7.4	<b>5.7</b>	0.7	-0.5
26	生徒が豊かな勤労観・職業観を持つことができるよう、各学年の生徒状況に応じた系統的な進路指導を行っている。	37.0	57.4	5.6	0.0	<b>12.6</b>	11.5	9.7
27	生徒一人一人が興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。	42.6	51.9	5.6	0.0	<b>13.1</b>	13.0	12.0
28	ホームルーム活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年、学校全体で取り組んでいる。	38.9	48.1	9.3	3.7	<b>10.9</b>	8.3	5.8
29	学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。	74.1	25.9	0.0	0.0	<b>17.4</b>	14.2	9.5
30	生徒会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを学ぶように、学校全体で支援している。	59.3	35.2	5.6	0.0	<b>14.8</b>	12.0	7.8
31	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるように、学校全体で支援している。	68.5	31.5	0.0	0.0	<b>16.9</b>	13.7	10.3
32	部活動について、生徒が達成感を得られるよう、活性化に取り組んでいる。	18.5	50.0	22.2	9.3	<b>4.6</b>	4.2	3.1
33	生徒に対し、社会規範や市民道徳を守る意識を育む機会をつくるように配慮している。	18.5	42.6	29.6	9.3	<b>3.1</b>	7.2	2.9
34	教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている。	13.0	29.6	50.0	7.4	<b>-0.9</b>	2.3	-2.0

35	教育活動において、生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会をつくるよう配慮している。	22.2	46.3	27.8	3.7	<b>5.6</b>	7.8	4.6
36	人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。	22.2	50.0	20.4	7.4	<b>5.9</b>	1.9	2.4
37	人権尊重の教育において、参加体験型の学習内容・方法を取り入れるなど、感性を高める指導を行っている。	16.7	66.7	11.1	5.6	<b>7.8</b>	7.0	5.5
38	同和問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習を工夫している。	35.2	46.3	13.0	5.6	<b>9.3</b>	7.3	6.0
39	在日外国人に対する理解を深め、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習を工夫している。	42.6	44.4	11.1	1.9	<b>11.5</b>	12.3	11.7
40	障がい者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるように工夫している。	40.7	50.0	7.4	1.9	<b>12.0</b>	10.4	6.5
41	男女共生意識に基づく社会を築く資質を養うことができるように工夫をしている。	22.6	52.8	22.6	1.9	<b>7.2</b>	3.1	4.0
42	環境・国際理解・福祉ボランティアなどの新しい教育課題を教育活動に積極的に取り入れている。	17.0	56.6	24.5	1.9	<b>6.2</b>	5.9	3.0
43	体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている。	39.6	54.7	5.7	0.0	<b>12.8</b>	10.9	7.8
44	中期的(3か年)な目標を踏まえ課題を明確にした「学校経営計画」を策定し、PDCAサイクルによる学校経営を推進している。	15.1	56.6	20.8	7.5	<b>5.1</b>	1.8	1.6
45	校長は、自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。	34.0	49.1	9.4	7.5	<b>9.2</b>	2.8	4.0
46	学校運営に、校長のリーダーシップが発揮されている。	28.3	37.7	24.5	9.4	<b>5.1</b>	-1.1	0.0
47	学校運営に、教職員の意見が反映されている。	30.2	56.6	7.5	5.7	<b>9.8</b>	4.0	2.2
48	教職員の適性や能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。	28.3	47.2	18.9	5.7	<b>7.4</b>	4.8	1.9
49	各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	26.4	45.3	22.6	5.7	<b>6.4</b>	-1.0	4.9
50	会議の内容が教育活動や学校運営に活かされている。	30.2	56.6	7.5	5.7	<b>9.8</b>	1.3	1.9
51	職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。	24.5	47.2	18.9	9.4	<b>5.8</b>	0.2	0.7

52	教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	34.0	50.9	7.5	7.5	<b>9.6</b>	7.2	4.0
53	日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができている。	43.4	37.7	9.4	9.4	<b>9.6</b>	8.2	5.1
54	本校の職場においては、教職員の服務規律への自覚が高い。	24.5	56.6	15.1	3.8	<b>8.3</b>	6.2	6.2
55	事故・事件・災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう役割分担が明確化されている。	28.3	60.4	9.4	1.9	<b>10.4</b>	8.5	8.4
56	本校は、生徒の生活の場として、ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている。	30.2	45.3	18.9	5.7	<b>7.5</b>	7.4	3.6
57	本校では、清掃がいきとどいている。	9.4	28.3	47.2	15.1	<b>-3.0</b>	-2.5	-5.3
58	施設・設備の拡充は、長期的見通しに立って計画されている。	15.1	43.4	34.0	7.5	<b>2.5</b>	1.9	2.8
59	施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。	20.8	50.9	24.5	3.8	<b>6.0</b>	5.5	4.5
60	各教科の備品や教材教具が十分に活用されている。	18.9	54.7	22.6	3.8	<b>6.2</b>	5.5	4.6
61	コンピュータ等のICT機器が、各教科の授業などで活用されている。	34.0	56.6	9.4	0.0	<b>11.5</b>	10.0	6.4
62	この学校は、情報リテラシーや情報モラルを高める教育に取り組んでいる。	24.5	64.2	11.3	0.0	<b>10.2</b>	5.4	4.5
63	校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。	26.4	54.7	15.1	3.8	<b>8.5</b>	5.7	7.2
64	校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。	30.2	49.1	17.0	3.8	<b>8.5</b>	5.0	2.4
65	学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。	41.5	45.3	13.2	0.0	<b>11.5</b>	9.6	7.4
66	教員の間で、授業方法などについて検討する機会を積極的に持っている。	24.5	52.8	20.8	1.9	<b>7.7</b>	4.5	3.6
67	この学校では、府教育センターなどが主催する研修に、計画的に参加する体制が整っている。	20.8	39.6	28.3	11.3	<b>3.0</b>	0.0	-2.7
68	研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。	15.1	20.8	49.1	15.1	<b>-2.8</b>	-2.0	-3.3
69	公文書の収受・発送・保管に対する管理が十分になされている。	35.8	58.5	5.7	0.0	<b>12.5</b>	9.5	7.8
70	学校から保護者宛てに公文書を発行するに当たって、校長が決済するシステムが確立している。	47.2	49.1	3.8	0.0	<b>14.0</b>	11.7	11.3
71	指導要録の記入・点検が年度内に適正に行われている。	49.1	43.4	5.7	1.9	<b>13.2</b>	14.3	12.4

72	個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している。	37.7	52.8	9.4	0.0	11.9	11.7	11.0
73	教育活動に必要な情報を積極的に収集し、生徒・保護者や地域への周知に努めている。	26.4	56.6	15.1	1.9	9.1	6.5	6.0
74	情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。	56.6	39.6	3.8	0.0	14.9	12.5	10.8
75	本校は、保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている。	20.8	54.7	22.6	1.9	7.0	9.2	6.8
76	教職員は、PTA活動によく参加している。	13.2	41.5	39.6	5.7	1.7	3.9	0.3
77	近隣の学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に活かしている。	32.1	49.1	17.0	1.9	9.2	7.5	6.4
78	支援学校との交流の機会を積極的に設けている。	5.7	11.3	52.8	30.2	-9.1	-9.4	-7.9

**考察・分析** 回答率：91.5%（昨年 96.6%—昨年 95.2%、）

今年の特徴としては、昨年度より肯定値が軒並み上昇している傾向が見られた。**78 設問中で**、前年度より指標が**上昇した設問が 68（昨年 58）、下降した設問が 10（昨年 19）**という結果になった。

**指標が上昇したもの（3P 以上）を抽出すると、昨年度 16 項目だったものが、今年度は 22 項目（質問番号 2, 4, 8, 9, 19, 25, 29, 31, 36, 41, 44, 45, 46, 47, 49, 50, 51, 62, 64, 66, 67, 69,）あり、以下に（4P 以上）の 12 項目を示した。**

- |    |   |                 |
|----|---|-----------------|
| 2  | 各年度の教育計画の作成に当たって、教職員でよく話し合っている。                   | 2.0→6.9(↑ 4.9)  |
| 8  | 年間の学習指導計画について、各教科でよく話し合っている。                      | 4.9→8.9(↑ 4.0)  |
| 25 | 校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、生徒や教職員の間で話し合う機会がある。 | 0.7→5.7(↑ 5.0)  |
| 36 | 人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。              | 1.9→5.9(↑ 4.0)  |
| 41 | 男女共生意識に基づく社会を築く資質を養うことができるように工夫をしている。             | 3.1→7.2(↑ 4.1)  |
| 45 | 校長は、自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。                | 2.8→9.2(↑ 6.4)  |
| 46 | 学校運営に、校長のリーダーシップが発揮されている。                         | -1.1→5.1(↑ 6.2) |
| 47 | 学校運営に、教職員の意見が反映されている。                             | 4.0→9.8(↑ 5.8)  |
| 49 | 各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。                    | -1.0→6.4(↑ 7.4) |
| 50 | 会議の内容が教育活動や学校運営に活かされている。                          | 1.3→9.8(↑ 8.5)  |
| 51 | 職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。       | 0.2→5.8(↑ 5.6)  |
| 62 | この学校は、情報リテラシーや情報モラルを高める教育に取り組んでいる。                | 5.4→10.2(↑ 4.8) |

**指標が大きく下降したもの(3P以上)を抽出すると、昨年度1項目あったものが、今年度は2項目となった。以下に(2P以上)下降したものの5項目を示した。**

- 33 生徒に対し、社会規範や市民道徳を守る意識を育む機会をつくるように配慮している。 7.2→3.1 (↓ 4.1)
- 34 教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている。 2.3→-0.9 (↓ 3.2)
- 35 教育活動において、生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会をつくるよう配慮している。 7.8→5.6 (↓ 2.2)
- 75 本校は、保護者や地域の人々と接する機会を多く持っている。 9.2→7.0 (↓ 2.2)
- 76 教職員は、PTA活動によく参加している。 3.9→1.7 (↓ 2.2)

**肯定的な意見が多かったもの(10P以上)を抽出すると、昨年度の20項目から27項目に増加している。12P以上の14項目を抽出すると以下ようになる。**

- 3 本校の教育活動には、生徒や保護者のニーズにあった特色がある。 14.3
- 6 教職員は生徒の意見をよく聞いている。 15.0
- 7 本校は、教育活動全般について、生徒や保護者の願いによく応えている。 12.6
- 11 生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている。 12.6
- 22 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる。 13.9
- 23 生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています。 12.6
- 26 生徒が豊かな勤労観・職業観を持つことができるよう、  
各学年の生徒状況に応じた系統的な進路指導を行っている。 12.6
- 27 生徒一人一人が興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。 13.1
- 29 学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。 17.4
- 30 生徒会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを学ぶように、学校全体で支援している。 14.8
- 31 生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるように、学校全体で支援している。 16.9
- 40 障がい者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を  
養うことができるように工夫している。 12.0
- 69 公文書の收受・発送・保管に対する管理が十分になされている。 12.5
- 70 学校から保護者宛てに公文書を発行するに当たって、校長が決済するシステムが確立している。 14.0

**一方、否定的な意見が多かったもの(-3.0P以下)を抽出すると、以下ようになる。**

- 10 指導内容について、他の教科と話しあう機会がよくある。 -4.6
- 57 本校では、清掃がいきとどいている。 -3.0
- 78 支援学校との交流の機会を積極的に設けている。 -9.1

## **教職員の自由意見**

- ・掃除、挨拶なども力を入れては、どうでしょうか。
- ・会議を精選し、放課後の活動時間をつくる。
- ・化粧、服装、ピアスなどの生徒指導の緩さが逆に学校の人気を高めている、というジレンマを学校全体としてどう乗り越えるのか悩みどころです。
- ・教育活動全般において優先順位を再考することによる業務量のスリム化。  
指示系統を明確化し業務の責任の所在を周知したり、いわゆる「人についている仕事」や本来の分掌業務とは別系統で「個人発注される仕事」を減らすことによる業務の見える化。  
運営委員と学級担任に偏っている業務量を全教職員に分散したり、本校で一定期間運営委員にも学級担任にもなっていない人にもこれらの業務に就いて頂くことによる業務の均等化。  
現状は、膨大な業務量を運営委員と学級担任のマンパワーでこなすのがやっとで、業務の効率化やマニュアル化まで手が回らずに自転車操業で3年間で過ぎて、3年後には別の転入者がまたそのサイクルにはまっていくというのを繰り返しているように感じます。
- ・生徒指導について教員全員が周知し、教員によって認識の違いがないようにすべき。

## **以上をもとに考察する。**

- ① **全体的** に今年度の特徴として肯定値が上昇（87% 昨年 74%）している。新型コロナウイルス感染症による臨時休業と感染症予防対策のため、授業計画と行事計画の変更や中止を余儀なくされた部分に関しては、当然のことながら指標が下がる結果となった。これに反し、学校運営に関する項目においては話し合う機会が増えたことによって指標が上がる結果となった。様々な計画が二転三転したことに加え、感染症予防対策に追われ、教職員の多忙感はあるものの、教員間の連携や情報共有が必要となる項目に関しては、同僚性の高さに助けられた結果となった。
- ② **肯定的** な意見が多い項目の内容をみると、例年と同じ項目が多くを占め、日々の教育活動において生徒に向き合いながら、カウンセリングマインドを持った生徒指導や進路指導、生徒会活動を中心とした学校行事、人権教育に取り組んでいることがわかる。この部分は八尾北高校の強みとして維持していかねばならないと考える。
- ③ **否定的** な意見にあるのが八尾北高校の弱みの部分である。清掃等は制度的な問題もあるが、依然として指標は低いので生徒指導ともからめながら継続して取り組んでいかねばならない。また、支援学校との交流不足に関しては、前年度までの結果を踏まえて今年度の教育目標から除外されていたのにアンケートに項目が残っていた。次年度の訂正が必要である。

(まとめ)

肯定的に指標が高いものは、本校の根幹部分にかかわる生徒指導全般に関する部分である。多種多様な生徒のニーズに答えるべく、さまざま教育活動に取り組んでいる。一方、社会的規範意識を育む教育の不足を感じており、今後の指導の在り方を検討する必要がある。また、学校運営に関する部分や教職員間の他分掌・他学年・教科間等とのつながりといった組織的な連携が改善傾向にある。本校の強みを堅持しつつ、教職員のより良い人間関係・同僚性を維持するとともに更なる共通理解をはかり、管理職はもちろん、分掌・学年・教科会議等において積極的な交流、工夫、改善への取組が必要である。